

第一問 解答例

問一

- ①喚起 ②痕跡 ③靈感 ④紡
- ⑥方途 ⑦乏 ⑧枚挙 ⑨潔癖 ⑩貨幣

問二 人をだます目的で贋作をでっちあげる (17字)

問三 近世以前は注文主の意向や親方の流儀に従うことが当然だったが、近代社会成立後は独創的な表現を持つ「オリジナル」に芸術品としての価値を認めることで不特定多数の公衆の需要に応えるようになったから。(95字)

問四 模倣しようとする作家の様式や絵柄について研究を重ねて作られた「贋作」が「ホンモノ」として扱われたり、「ホンモノ」であつても真正性に疑問が差し挟まれた作品が「真作」とは見なされなくなったりするから。(98字)

問五 無から有は生じず、すべての創造は「コピー」の所産と考えられ、実際「コピー」行為が独創的な創造を生み出していることも踏まえると、独創性にこそ価値があり「コピー」が「オリジナル」よりも劣るという近代的な芸術観は不確かであると批判している。(120字)

第二問 解答例

問一 ア「思すにや」 思す（サ行四段活用動詞「思す」連体形）・に（断定の助動詞「なり」連用形）・や（疑問の係助詞）

イ「見え給へば」 見え（ヤ行下二段活用動詞「見ゆ」連用形）・給へ（尊敬の補助動詞「給ふ」已然形）・ば（順接確

定条件の接続助詞）

問二 ①「うち泣く」 宰相の乳母

②「思ひ給はん」 姫君

問三 姫君のご出産は十一月にあたるということ。（参考 二十字）

問四 姫君が妊娠していることを知られないようにするために言った。（参考 二十九字）

問五 （姫君が） どうしてそのように母君の死を嘆いてばかりいらつしやるのでしょうか。（参考 三十三字／三十六字）

問六 姫君に亡き母の墓参りをさせたいという口実のもと、三条の邸で左大臣家の人々に知られずに姫君の出産を終えたいと考
えたから。（五十九字）

注意 人文学部・教育学部受験者用

第三問 解答例

- 問一 ① かつ ② ここにおいて ③ いわゆる（いはゆる） ④ かくのごとし

問二 「書き下し文」 つねになにをもつてぎよう（げふ／なりわい／なりはひ）となすか
「現代語訳」 日常的に何を生業としているのか

問三 もつてこれにさづけ（さづけ）、まさにさらんとす

問四 一日たりとも欠いてはいけないものがこれである

問五 おいはぎが伊藤仁斎を襲ったところ、仁斎は平然として、人間には常に従うべき道理があると説いたため。

第四問 解答例

問一 日本では、高度経済成長期に環境問題や消費者問題が生じ、その後は社会のニーズが多様化して福祉問題や教育問題が重要になるなど、時代とともに社会の状況が変化し、社会が対処しきれない課題が増えてきたこと。(九八字)

問二 戦後、家族の形態が変化してケアの機能を担いきれなくなる「家族の失敗」が社会的な支援を要請するようになり、また、地域社会の変容により地域内で互助的な機能を担えなくなる「地域の失敗」がもたらされたこと。(九九字)

問三 単に労働の対価として金銭を提供することにとどまらず、企業組織内の人間関係を基盤として冠婚葬祭などを含め従業員の生活の多様な側面を総合的に支え、また社会参加や自己実現の場を提供する共同体的な機能。(九七字)

問四 異質性の高い社会では、さまざまな属性やライフスタイル、価値観をもつ人びとが異なるニーズをもつため、政府が満たしきれないニーズもより多様になり、それらに対応するために多くのNPOが必要であるから。(九七字)